



教 成 館

関小だより

【学校教育目標】

- よく学び工夫する子ども
- 健康で明るい子ども
- きまりを守り、助け合う子ども
- 責任をもちやりぬく子ども

平和な世の中を願って～6年生戦争学習～

10月29日（火）6年生は、一関市在住で、戦争当時の一関のことに詳しい齋藤三郎さんを講師にお招きして戦争についての学習を行いました。6年生は学習公開で、5人の息子を戦争に送り出した母親の姿を通して戦争の恐ろしさや悲しさを演じました。社会科でも日本の戦争当時の様子については



学習しますが、より身近な一関市の戦争当時の様子や人々の思いを知ること、戦争についてより深く理解し、平和な世の中にしていくために自分たちにできることをみんなで考えていくことに繋げることをねらいとしています

齋藤さんは、岩手県や一関市への空襲のこと、集団疎開のこと、当時の人々の暮らしや感情等、ご自分で調べた資料や情報をもとに、具体的にお話してくださいました。子供たちは、一関市に落とされた爆弾の破片に触ったり、米軍が空からまいた空襲予告のビラを見せてもらったりして、記憶に残るお話となりました。



ワクワク算数教室～相手の答えをヒントに考える～

10月24日（木）、25日（金）、30日（水）の3日間、6年生対象に「算数ワクワク教室」を開催しました。（各学級1日ずつ、5、6校時に開催）講師は、一関第一高等学校の宮本次郎先生で、「赤いぼうし」という絵本を使いながら授業をしてくださいました。

例えば：「赤いぼうし2つと白いぼうしが1つあります。あなたと太郎さんに目をつぶってもらい、3つのぼうしの中から1つずつかぶせました。目を開けた時、相手のぼうしは見えますが自分のぼうしは見えません。でも、太郎さんはあなたを見て自分は赤色のぼうしをかぶっていると言っています。さてあなたは、何色のぼうしをかぶっていますか？」という問題が出されます。答えは「白色のぼうし」です。もし、太郎さんが「わかりません」と言ったら、私は「赤色のぼうし」をかぶっていることになります。



このように、相手の答えを聞いて答えを導き出します。ぼうしの数と人が増えると、だんだんややこしくなります。子供たちはグループごとに「ああでもない、こうでもない。」と話し合いながら、紙に書いたり実際にぼうしをかぶってみたりと、脳みそをフル回転して考えていました。授業後の子供たちの中には「難しかったけど、楽しかった。」という感想をもった子もたくさんいました。

これからの社会で求められる人材は、自ら課題を見つけ工夫したり試行錯誤したりながら粘り強く取り組み課題を解決する意欲のある人材です。学校としては、教科書の内容だけにとどまらず、個々の学びを広げ、学ぶ意欲や思考力を高めていくことにこれからも取り組んでいきたいと考えます。